

横浜市立笹野台小学校 平成30年度 学力向上アクションプラン

1 中期学校経営方針

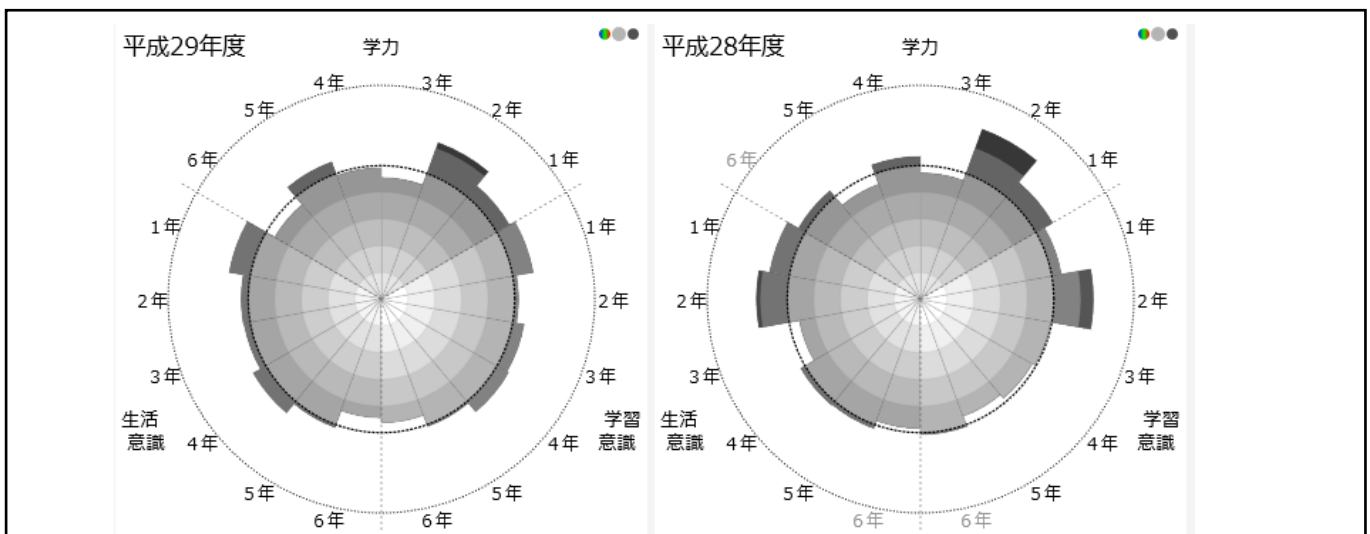
(1) 学校経営中期取組目標

学校経営中期取組目標	
<p>「元気いっぱい やさしさ いっぱい 笑顔いっぱい 心がややく 笹小キッズ」(笹野台小の合い言葉)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人とのふれあいを通して、相手を思いやる気持ちや公正公平な心情を育み、豊かな心を育てていきます。 ・楽しく分かる授業を通して、学習する喜びを味わえるようにし、学力向上に努めていきます。 ・健康や安全の大切さを学習や生活の中で体験的にとらえさせることで、健康の保持増進や安全意識を高めていきます。 ・地域行事への参加や地域の教育力を活用していくことで、まち全体で教育を推進していきます。 	

(2) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力 (学習指導) 担当 研究研修部	子供たちが主体の「分かる楽しい授業」を実践していくとともに、定着した基礎・基本を活用して思考力や表現力、判断力を高める指導を目指します。	①子供たちが主体となり自ら課題を発見し解決できるような学習展開を進める。 ②めあてと学習方法を明確にし、振り返りの時間を確保し、1時間の学びと成長を実感できるようにしていく。 ③学力・学習状況調査から課題を発見し、解決していく授業を増やしていく。 ④互いの授業やベテラン教員の授業を参観し授業力の向上を図る。

2 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握



(1) 学力の概要と要因の分析

27年度から28年度にかけてほぼ全ての学年で学習意識・生活意識が高まってきており、29年度においても高い状態を保っている。学習意識が高まった学年では、同様に学力も高まっている。全体的には、概ね横浜市の平均的な学力であるが、学年ごとに成果と課題が大きく異なっている。このことから学年ごとの綿密な改善計画が必要であるとする。また、学校全体としても、課題を克服するために、今後は、①子供たちが課題を発見し、解決できる学習、②めあてと学習方法を明確にし、振り返りの時間を確保する学習展開、③学びと成長を実感できる学習を大切にしていく。

(2) 教科学習の状況

- 「ノートをていねいに工夫して書いている」と答える児童の割合がどの学年でも高い。
- 国語科：全体的には、話す・聞く能力と書く能力は市の平均を上回っている。学年が上がるにつれ、「知識・理解」の項目は高まっている。
- 算数科：「数学的な考え方」、「技能」は、市平均より高い学年が多い。T.Tで指導をした中学年では、特に学習に対する意識が高くなっている。
- 社会科：「思考・判断・表現」、「知識・理解」は市平均より上回っている。「技能」は市平均を下回る学年もある。

○ 理 科：「知識・理解」「技能」は市平均をやや上回ってはいるが、「学習意識」が低い傾向にある。

(3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

平成 27 年度から 29 年度の過去 3 年間の経年変化の状況から、学力が高まったり低くなったりと不安定な学年が目立つ。当然のことながら、生活意識や学習意識が市平均を上回った学年は、学力も高くなっているが、その学年もその年々によって大きく変動していることが分かる。この状況から、教職員の人材育成や授業力、生活指導力の向上が、課題であると考えている。

(4) 今後の方向

- ・学力の幅のある状況において安定した授業のできる授業力の向上
- ・特別な教育的支援が必要な児童がいる学級に対する授業力、指導力の向上
- ・会議等の精選による研究・研修時間の確保

3 平成 30 年度 学年・教科等としての具体的取組

1 学年

確かな学力

- 各学年の昨年度の傾向から、学習意識や生活意識の高まりが学力に結びついていることが分かった。これをもとに学習内容や授業展開を考え指導していく。
- 基礎基本的な知識技能の定着
 - ・音読、平仮名や片仮名や漢字練習、計算練習などを継続的にを行い、家庭学習の充実も図る。
 - ・読み聞かせを行う。
 - ・自分の思いや考えを話したり書いたりする。

2 学年

確かな学力

- 言語活動の充実
 - ・スピーチなどで、出来事や気持ちを話す時間を設ける。
 - ・相手や目的に応じて、道筋立てて話す。内容を的確に聞き取る。
- 基礎基本的な知識技能の習得
 - ・読み聞かせを行う。
 - ・音読を継続的に行う。
 - ・個に応じた指導、支援の充実。補充、基礎、発展的な指導。
 - ・家庭学習の継続的な取り組み。
- ノート指導
 - ・丁寧な文字を書く、整理して書くことを指導する。
 - ・自分の考えや思いを正しい文章で書き表せるようにする。

3 学年

確かな学力

- 既習の力を生かして新しい課題に取り組む
 - ・繰り返しの指導を重ね、基礎・基本を育てる。
 - ・応用力、活用力を身に付ける。
- 表現力を高める
 - ・自分の考えを整理して説明する・・・一人ひとりが活躍できる場を設定し、話型を考えて話すことで自信を付けさせる。
 - ・自分なりの表現方法を見付け、分かりやすく相手に伝えようとする力を育てる。

4 学年

確かな学力

- ・どの教科も「教えて、褒める」ということを大切に指導していく。
- ・国語科の学習では、文章を正しく読めるように指導する。そのため、言葉を大切に指導をする。
- ・算数科の学習では、チームティーチングを有効的に活用し、一人ひとりを丁寧に見取り、算数の自信をつける指導を行う。
- ・社会科、理科の学習では、体験的な活動を取り入れ、興味関心をもって進められるように指導する。

5 学年

確かな学力

- ・学力差が著しく開いている現状があるので、各教科でしっかり教え、しっかり引き出す指導を行う。
- ・社会科・理科・図工等で専門性を高め、子供たちに充実した授業を実施するために教科担任制を実施する。

6 学年

確かな学力

- ・話の聞き方の指導を徹底する。
- ・個に応じた指導を行う。
- ・毎日プリントを宿題にして前学年までの既習事項の復習を行う。
- ・社会科、理科の学習では、体験的な活動を取り入れ、興味関心をもって進められるように指導する。